



日本大学歯学部

NIHON UNIVERSITY SCHOOL OF DENTISTRY



大学院歯学研究科



DENTISTRY 2025

「医学的歯学」で これからの歯科医師へ

日本大学歯学部では、歯学を単に口腔や歯だけにとどめず、全身との関連において学ぶ「医学的歯学」を教育理念として、未来の医療人を育成しています。

口腔の健康が誤嚥性肺炎や糖尿病などの全身疾患と関連することが、さまざまな視点から明らかにされています。

むし歯や歯周病などがない健康な口腔を保つことは、いつまでもおいしく食べることや話すことにつながるだけでなく、要介護の原因となる病気を予防し、健康寿命を延ばす鍵となります。

また、我が国をはじめ高齢化が進む多くの国・地域では、病気やその後遺症を抱えた患者に対する歯科診療のニーズも高まっています。

つまり、「医学的歯学」の考えを深く持つ歯科医師が、今、一人でも多く求められているのです。

日本大学歯学部は、これからの社会を支える医療人を目指し、その一歩を踏み出すみなさんと真摯に向き合い、共に歩みます。



CONTENTS

日本大学歯学部 Nihon University School of Dentistry

目次	01
学部長メッセージ	02
施設紹介	03
CROSS×TALK	05
6年間のステップ	07
カリキュラム	09
キャンパスライフ	11
学生の声	13
学修支援	16
多彩な進路	17
入学者選抜情報	19
学費・奨学金	21
学生寮	22
大学院歯学研究所	23
総合歯学研究所	24
教育方針	25
日本大学歯学部の歴史	26

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

■日本大学マインド

■日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

■多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

■社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

■「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

■自ら学ぶ

豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

世界の現状を理解し、説明する力

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

■自ら考える

論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を見出し、解決策を提案することができる。

■自ら道をひらく

挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

省察力

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

私たちの目標、それはお口の働きから 国民を健康に導く歯科医師を育てることです

日本大学歯学部長

飯沼 利光 教授(歯科補綴学)

日本大学歯学部は大正5年に創設され、日本でも有数の伝統を誇ります。その特色は、基礎医学の知識に乏しく、技術偏重であった当時の日本の歯科医学会において、極めて先駆的な「医学的歯学」の教育理念、すなわち、歯学を単に口腔や歯だけにとどめず、全身との関連において組織的に学ぶことの重要性を強調した教育をこれまで一貫して行ってきたことにあります。そしてこの理念は、現在、日本はもとより世界で歯科教育の基本となっています。

一方、日本大学は創設130周年を迎えた日本最大の総合大学です。その教育の柱は、日本大学教育憲章にもあるように「日本大学マインド」として「日本の特質を理解し伝える力」、「多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力」、「社会に貢献する姿勢」の3つを掲げ、そのマインドを備えていくために「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」という「自主創造」の3要素を身につけた学生を育成することです。

今まさに、社会の価値観が複雑かつ多様化する状況の中で、歯科医師に求められる活躍の場はこれまで想像されていなかったさまざまな領域まで拡大しており、そのような場で活躍するには、どのような苦境の中でも決して志を失うことなく、難問解決のための様々なアイデアや技術を発案、提供し、その活用方法を社会に向け広く発信する能力が求められており、まさに「自主創造」を身につけた歯科医師の育成こそが日本大学歯学部の大きな使命であると確信しています。

この使命感を共有し、本学部で歯科医学を学び、国民の皆さんの健康長寿に貢献したいという強い意思のある学生の皆さんの入学を心から歓迎いたします。

そして、私たち教職員は皆さんのその目標達成のために全力で応援いたします。



「医学的歯学」で
これからの歯科医師へ

施設紹介

本館は、「教育・研究・臨床の融合」を図る新校舎・新歯科病院を建設するというコンセプトの下で、令和4年4月1日から本格稼働しました。

地上7階地下2階のうち、2階と3階に1年次から6年次学生のための講義室が配置されています。地下1階と4階には、実習室が配置され、5階から7階までは、基礎系の研究室と材料・組織系・培養系・動物系の実験を行う共用ラボです。1階と地下1階には、グループスタディールームやラーニングcommons型の図書館が、また、地下1階には憩いの場として、ラウンジが配置されています。

新校舎は新病院と一体となり 教育・研究・臨床すべての機能が集約

主体的に学ぶ



図書館閲覧室

新校舎の1階と地下1階の2フロアにある図書館には、歯科学を中心とした最新の生命科学系図書・雑誌を配備しており、電子ブック・電子論文も多数取り揃えています。また、学生による選書図書(学生選書)により、生命科学系以外の分野の図書、ベストセラーや小説なども提供しています。館内には、可動式ホワイトボードや机を備えたラーニングcommonsを設置し、明るく開放的な空間で学生の主体的な学びをサポートする環境を整えています。



ラーニングcommons

共に学ぶ



グループスタディールーム



図書館には、学生の学修支援に向けた新たなスペースとして閲覧室兼自習室エリアがあります。静粛な環境のもと集中して学修できるスペースを提供しています。同じフロアにはグループスタディールームも計7ブース(定員3～8人)設置。壁全面がホワイトボードになっており、グループ学習や少人数のミーティングなどで利用されます。

最新の設備で学ぶ



実習室(スキルスラボ)

4階には、臨床手技のシミュレーション教育を行うスキルスラボを配置しています。最新鋭の診療用ユニットを用いて、診療室と同じ環境で実際の診療をイメージしたトレーニングを行い、臨床手技のスキルアップを図ります。



実習室

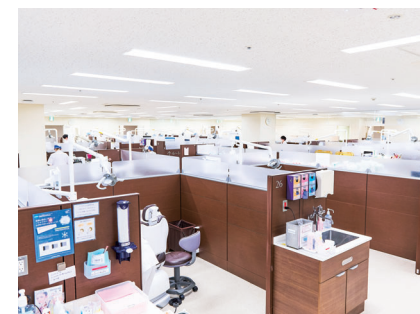
主に1～3年次が基礎科学・基礎歯科医学を学ぶための実習室があり、移動可能な大型モニターやICT機器を用いた実習が可能な設備となっています。

先端的歯科医療の現場で学ぶ

日本大学歯学部附属歯科病院は、アクセスの良い都心に位置する大学病院として、むし歯、歯周病や顎顔面等における疾患を持つ患者さんを広く受け入れています。歯科用ユニット144台、24床の入院設備に加えて、感染症患者さんのための治療設備や身体の不自由な患者さんのための治療設備も備えています。5年次からの診療参加型臨床実習では、年間約18万人の来院患者数を誇る附属歯科病院で、多様な症例に触れながら、歯科医師としてのプロフェッショナリズムや知識・態度・技能を学びます。



5年次の診療参加型臨床実習



歯科病院診療室



手術室

憩う



本館ラウンジ



テラス



3号館ラウンジ

Others



3号館

教務課、学生課などの事務室や、保健室、学生支援室があります。地下には各クラブの部室やウェイトルーム、シャワー室を備えています。また、歯科技工専門学校で講義を行っています。



4号館

歯学部創設80周年記念事業として平成18年に竣工した建物です。講義室や会議室があります。また、歯科衛生専門学校の講義を行っています。

「医学的歯学」で これからの歯科医師へ

(学年は令和5年3月現在)

CROSS×TALK

4年生 高坂 彩乃さん
私立國學院高等学校(東京都)出身

林 誠教授
歯内療法学

2年生 今仲 晏智さん
私立学習院高等科(東京都)出身

進級も卒業も仲間と乗り越えていく 互いに切磋琢磨して学ぶ伝統がある

やっぱり基礎が大事 深い理解が専門科目の土台になる

林 日本大学歯学部は、医学的歯学の教育を根幹に据え、豊かな人間性を有する人材育成に注力するために、理論的な思考力や問題解決能力を育む多彩な科目を用意しています。それだけに学ぶことが多いのですが、どのように学修していますか。

今仲 2年生になると歯学・医学系の基礎科目がぐんと増え、内容は難しく覚えることも多いです。でも、歯学部ならではの学修が始まった期待感から、日々の予習復習に一層力が入っています。

高坂 先輩としてアドバイスすると、3年生、4年生になると臨床を前提とした知識や技能を修得する専門科目が多くなります。そこでの学びの土台になるのが、2年生で学修する組織学や解剖学などの基礎科目です。例えば、組織学で健全な組織像の特徴を理解しているから病気になった病理像との違いが分かる。厳しい指導でつらかったけれど、そこで身につけた学びが、今活きていることを実感し

共用試験を乗り越える力がついたと思っています。

林 高坂さんや今仲さん達のカリキュラムでは、2年生は歯学や医学の勉強をするスタート地点ですので、学びがどう役立つのかイメージしにくいこともあります。高坂さんが話したように、組織学、解剖学、病理学、生化学、細菌学などは、臨床に結びつかないように思える科目も、実は非常に強く結びついています。例えば、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯性上顎洞炎は、組織が異なるけれど「炎症」としては同じ。炎症の源を勉強するのは生化学であり細菌学であるわけで、基礎科目では臨床との関連

を常に意識して学修するのがコツです。共用試験や歯科医師国家試験にもつながります。また、2年生の履修科目のなかには、臨床を意識できる科目もあります。

今仲 その1つは歯科理工学ですね。臨床での具体例を挙げた指導はとても分かりやすく、毎回楽しみです。「この材料を使った方がより良い」とか、歯科医として臨床現場に立つ自分をイメージできる、将来に役立つ内容だと思っています。

林 「将来、自分は歯科医として患者さんの病気を治すんだ!」というモチベーションは、1年生から



2年生くらいは維持しにくい時期だと思います。しかし4年生終わりの共用試験に合格すれば、5年生からは臨床実習が始まり、朝から晩まで臨床現場でStudent Dentistとして診療に参加するので、モチベーションは自然に上がります。

今仲 1年生、2年生で、付属歯科病院や開業医の卒業生を訪ねて臨床現場を見学することで、将来の歯科医師像をリアルに感じたいと思っていたのですが、コロナ禍で叶わず残念な思いをしました。

林 そうですね。どうしてもコロナ禍では、学修環境に制限がありました。収束の目途を条件に2023年度から開始される新カリキュラムでは、1年生の「歯科臨床早期見学実習」と3年生の「歯科臨床見学実習」で、それぞれ臨床現場での実習が行われることになっています。

自発的に、意欲的に、 積極的な姿勢が学びを育む

高坂 もう1つアドバイスしたいのが、テストのための暗記だけでは深く理解した知識の蓄積にはつ

ながらないということです。教科書に書かれていることを1つずつ丁寧に調べて理解したり、自発的かつ意欲的に学ぶ姿勢が、深い理解につながると 생각합니다。疑問があればどんどん先生に質問して解決する。分からないまま放置するのが、一番怖い。今理解できないことは共用試験でも解けないし、歯科医師国家試験でも解けないと私は思っています。

林 問題解決能力をどう獲得するか。それは日々試行錯誤しながら、自分に合った学び方を探していくことだと思います。今仲さんは、委員会活動を行っています。

今仲 本学部では「クラス委員」による学生生活をより良くするための活動があり、クラス委員から「学修班を創ろう」という提案があり、参加しました。コロナ禍だったので、対面ではなくオンラインでの活動でした。効率よく勉強するにはどうすれば良いか、10人くらいで話し合い、授業のまとめをオンラインで配信しました。

林 本学部には、5年生から国家試験を見据えて学生が主体的に学修をサポートする組織がありま

す。リーダー役の同期や大学院生のTA(ティーチングアシスタント)が指導役となり、学年全体を引っ張っていく組織です。同様の組織を低学年から創ろうという意気込みは素晴らしい!

高坂 私は1人で勉強するよりも、3年生、4年生の実習で同じグループだった友人たちと一緒に勉強することが多いです。それぞれ得意科目があるので互いに教え合います。自分の得意部分の強化と、足りない部分の埋め合わせができます。

今仲 私も友人と一緒に勉強していますが、身につくはかどります。

林 本学部の前身である東洋歯科医学校の創設者・佐藤運雄先生は、人間教育として仲間同士で切磋琢磨することの大切さを説いています。「学年全体で一致団結して励まし合い、切磋琢磨し、困難を乗り越えよう」という精神が、今も伝統として受け継がれていると思いました。コロナ禍を乗り越え、よりレベルアップした「仲間との切磋琢磨」を実践してほしいですね。

高坂・今仲 はい、頑張ります!

専門的知識や的確な医療技術と豊かな人間性を有する歯科医師を目指して

自主創造の基礎

「自主創造の基礎」の中で実施している『日本大学ワールド・カフェ』では、12,000人以上の学生が、文系、理系、医歯薬系の垣根を越え、他学部の学生と交流しながら学修することができます。



日本大学ワールド・カフェ



新入生オリエンテーション

入学直後に行われる「新入生オリエンテーション」は校内と校外で行われます。はじめに校内で、カリキュラム、学生生活、クラブ活動などのガイダンスが行われ、日本大学歯学部で学修する上で必要な情報を得ることができます。続いて1泊2日で日本大学の研修施設(軽井沢)で行われる校外オリエンテーションでは、グループ作業を通して、お互いをよく知り、理解し合う機会を持つことができます。



臨床実習前の共用試験(CBT・OSCE)とは

歯科医師の資格のない歯学生が患者さんの診療に携わるために、臨床実習に参加している学生が一定の能力を有することを社会に保証する必要があります。そのため、臨床実習開始前に学生が備えているべき知識・技能及び態度を評価する全国統一の試験として、CBT (Computer Based Testing) とOSCE (Objective Structured Clinical Examination)が実施されます。これらの両方に合格することは、進級要件となるだけでなく、臨床実習において歯科医師の指導監督の下、Student Dentistとして歯科医療を行うことが法律で認められます。さらに、令和8年度以降の歯科医師国家試験の受験資格要件にもなります。

CBT

CBTでは、知識の統合的な理解と問題解決能力を評価するため、基礎から臨床の各分野にわたる膨大な蓄積問題の中から、コンピュータがランダムに問題を抽出・出題し、受験者はモニター上に提示された問題を解答します。

OSCE

OSCEでは、歯科医師に求められる能力(コミュニケーション、医療安全、感染対策、歯学的診察、検査・臨床技能)を評価するため、受験者は決められた時間内で模擬患者やマネキンを用いた実技課題に取り組みます。

■ 教育研究上の目的と方針

教育研究上の目的

歯学部的前身である東洋歯科医学校の創設者である佐藤運雄先生の唱えた「歯学を口腔に止めず、常に全身と関連づけて学ぶ」という医学的歯学を校是とした教育を基盤としている。さらに、人間教育としては、師による人格の教化と切磋琢磨を基本としている。また、医療人として、生涯にわたり自己の資質の向上に努め、社会に有為なスキルの高い歯科医師を養成する。

(歯学科)

専門的知識や的確な医療技術と豊かな人間性を有する歯科医師を養成する。すなわち、幅広い教養と総合的な判断力の上に立って、常に最新の科学的情報を基にして問題を探究する能力の高揚と、診療に際して患者本位の歯科医療に携わることのできるスキルを備えた歯科医師を養成する。



診療参加型臨床実習

診療参加型臨床実習は、付属歯科病院で行われ、Student Dentistである第5学年学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を担います。歯科医師としてのプロフェッショナリズムや知識、技能及び態度などの基本的な事項を身につけるだけでなく、医療現場で必要とされる思考法、対応力及び実践的な技能を養い、歯科医師としての能力を修得します。また、診療型臨床実習を行った学生が、歯科医師に求められる基本的な態度ならびに治療技術を身につけているかを確認するため、Post-CC PX(Post-Clinical Clerkship Performance Examination)が実施されます。

臨床実習後の共用試験(Post-CC PX)とは

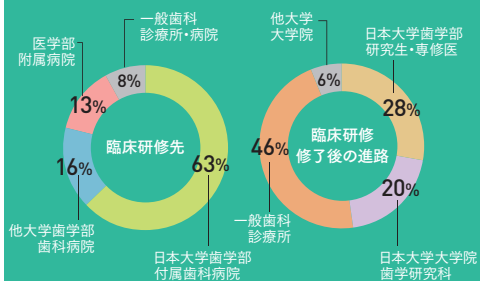
診療参加型臨床実習では、地域社会や患者さんの協力を得ながら多くのことを学ばせてもらいます。したがって、診療参加型臨床実習を行なった学生が「歯学部を卒業させてよいと判断できる態度や技能を修得できているか」「卒業後の臨床研修をスムーズに開始できる臨床能力を修得しているか」を評価し、協力いただいた多くの患者さんに対して、歯科医師としての資質を備えていることを証明する必要があります。このような背景のもとで行われる共用試験がPost-CC PXです。Post-CC PXでは、臨床実地試験(CPX)と一斉技能試験(CSX)の2つの試験が行われます。CPXでは臨床現場での態度やパフォーマンスが評価されます。CSXでは歯科疾患を再現した模型を用いて、診療参加型臨床実習を通じて修得した治療技術が評価されます。

卒業後

歯科医師臨床研修制度について

歯科医師免許取得後、歯科診療に従事しようとする者は1年以上の臨床研修が義務付けられています。その研修先は、研修希望者と臨床研修施設の希望を踏まえ、一定の規則(アルゴリズム)に従ってコンピューターにより組合せを決める歯科医師臨床研修マッチングプログラムにより決定されます。日本大学歯学部付属歯科病院では、研修医を受け入れる研修体制およびカリキュラムの充実を図り、歯科治療における適確な診査・診断が行え、それに必要とされる技能の修得ができるよう、さまざまな研修プログラムを用意しています。毎年、本学部および他大学から多くの研修医を受け入れ、それぞれの叶えたい夢が実現できるようにバックアップしています。

卒業後の進路 (令和4年度)



研修協力施設における研修内容の例

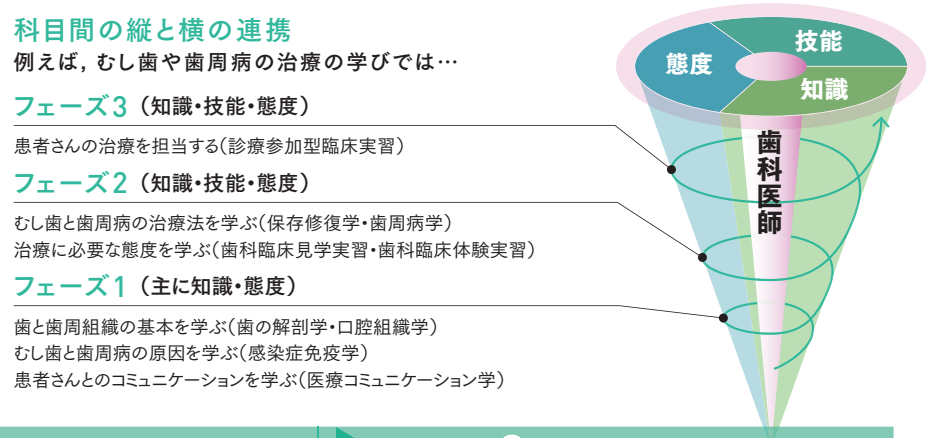
- 1 東京都の離島へ指導歯科医と研修歯科医からなる医療チームを派遣して、各島の地域医療ニーズに応じた研修を実施しています。



- 2 東京都特別区内保健所研修では口腔保健に関するヘルス・プロモーションやプライマリ・ヘルス・ケアなどの保健・医療活動が行われています。

知識の定着を確実にし、総合的に歯科医学を学ぶ

フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
歯科医学を学ぶための基盤を形成する 教養科目及び基礎歯学の科目が配置されています。第1学年前期では、歯学部での学修に必要な基礎的知識を講義と実習により確認します。また、問題基盤型学修(Problem-Based Learning: PBL)で理論的な思考能力及び問題解決能力を育成します*。第1学年後期からは、基礎歯学の科目を中心とした講義と実習が始まり、臨床歯学を学ぶための基盤を形成します。 *歯科医療の現場では、知識量が豊富だけでなく、複数の専門分野の知識を統合して使う力(考える力)が要求されます。PBLでは、課題(症例)から学生自身が問題を発見し、その問題を解決する過程の中で、自ら学ぶ姿勢と考える力を養います。PBLを通じて、高等学校までの「覚える学修」から歯科医師になるための「考える学修」への転換を図ります。	問題解決能力を身に付け、臨床の知識・技能を体系的に修得する 主に臨床歯学の科目が配置されており、講義と臨床基礎実習を行うことで基礎歯学を含めた知識と技能を統合させます。さらに、専門性を高めた形でPBLやシミュレーション実習を実施することにより、臨床における問題解決能力の基礎を育成します。	診療参加型臨床実習を通して歯科臨床能力を高め、歯科医師国家試験に挑む 診療参加型臨床実習において、Student Dentistとして患者に対する診療を担当することにより歯科臨床能力を育成します。また、さまざまな学修分野を集約化した「総括講義2・3」により、学修を深化させるとともに、複数分野を融合することで、歯科医師国家試験に対応できるよう、知識を拡充します。



1年

前期

後期

歯科医学を学ぶための基礎

教養科目が配置されており、主体的に学修する習慣を身につけながら、歯科医学に必要な幅広い知識に触れます。歯科医学の理解につながるコースです。

物理学1

化学

生物学

医療統計学

物理学2

データサイエンス

全身管理

さまざまな疾患をもつ患者さんが安全に歯科治療を受けられるよう、全身管理に必要な幅広い知識を修得するコースです。

生理学1

生化学1

生理学2

生化学2

薬理学1

生化学3

口腔と顎顔面疾患の治療

口腔だけでなく顎・顔面領域の疾患の診断・治療を行うために必要な知識や技能を網羅的に学修するコースです。

解剖学(骨)

組織・発生学

歯の解剖学

解剖学(筋、内臓、神経、脈管・感覚器)

口腔組織学

人体解剖学実習

病理学1

■ 6年間のカリキュラムを通して修得できる能力

歯科医療は日々進歩しており、歯科医師に求められる医学的知識は増え続けています。また、実際の臨床で遭遇するさまざまな状況に対応するためには、知識を応用する力や実際の行動に移すための決断力も求められます。当然、患者さんのために働くといった高い倫理観と使命感や、獲得した知識を積極的に更新するための生涯学習の姿勢も求められます。そこで、本学部では、歯科医師が身につけるべき能力をコンピテンス・コンピテンシーとして示しています。詳細は25・26ページを参照してください。

これらの歯科医師に必要な能力は、講義中心の受動的な学修だけで身につくものではなく、学生の皆さんが「目指す歯科医師像」をイメージし、それぞれの科目でどの能力が身につくかを意識しながら主体的に学ぶことが重要となります。

歯科医師として求められる基本的な資質

医療人としての成熟に必要な科目や問題基盤型学修科目が配置されており、プロフェッショナリズムや問題解決能力の基礎を育みます。また、働き方の多様化が進む中での歯科医師としてのキャリアパス形成を考えるコースです。

歯科医学入門1

英語1

スポーツ健康科学1

自主創造の基礎

歯科臨床早期見学実習

英語2

スポーツ健康科学2

日本を考える(選択)

プロフェッショナリズムと行動科学

英語3

医療コミュニケーション学

歯科臨床見学実習

研究の実践(選択)

歯科医学入門2

歯科臨床体験実習

2年

前期

後期

社会と歯学

保健・医療・福祉・介護の場で、地域社会に貢献するための基礎を学ぶコースです。

衛生学1

衛生学2

診察の基本

画像診断や診察・検査などについて理解し、健康でない状態の原因を分析、判断する力を身につけるためのコースです。

歯科放射線学1

歯と歯周組織の治療

齲蝕や歯周病など、臨床で高頻度に遭遇する疾患とその対応を、基礎系科目の最新の知見も踏まえて幅広く学修するコースです。

感染症免疫学1

感染症免疫学2

歯質と歯の欠損治療

歯を失うことによって低下した口腔機能を回復するために必要な知識や技能を、材料学も含めて系統立てて学修するコースです。

歯科理工学1

歯科理工学2

顎口腔機能学

冠橋義歯補綴学1

全部床義歯補綴学1

冠橋義歯補綴学2

部分床義歯補綴学1

全部床義歯補綴学2

3年

前期

後期

社会歯科学1

社会歯科学2

口腔内科学1

歯科放射線学2

口腔内科学2

薬理学2

歯科麻酔学1

病理学2

口腔外科学1

保存修復学1

歯内療法学1

歯周病学1

保存修復学2

歯内療法学2

歯周病学2

4年

前期

後期

法医学

診査診断学

歯科麻酔学2

口腔外科学2

口腔インプラント学

部分床義歯補綴学2

小児歯科・矯正歯科治療

歯の発育過程でのトラブルや不正咬合への対応など、一般歯科治療とは異なる視点で学ぶコースです。

小児歯科学1

歯科矯正学

小児歯科学2

歯科矯正学実習

スペシャルニーズデンティストリー

歯科治療にあたり特別な配慮が必要な患者さんについて理解し、個々の患者さんに適した対応を学ぶためのコースです。

高齢者歯科学

有病者歯科学

摂食機能療法学

5年

前後期

診療参加型臨床実習

これまでに学んだ歯科医学についての知識を整理・統合し、歯科医師に必要な知識ならびに問題解決の能力を身につけ、歯科医師国家試験に合格できる学力を身につけます。

Post-CC PX

(診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験)

総括講義2

診療参加型臨床実習で得られる知識・思考法・技能と、第4学年までに学んだ知識を整理・統合し、学修を深化させます。

隣接医学1・2・3

歯科治療の多様化

6年

前後期

総括講義3

これまでに学んだ歯科医学についての知識を整理・統合し、歯科医師に必要な知識ならびに問題解決の能力を身につけ、歯科医師国家試験に合格できる学力を身につけます。

歯科医師国家試験

アドバンスト診療参加型臨床実習

▶ キャンパスライフ

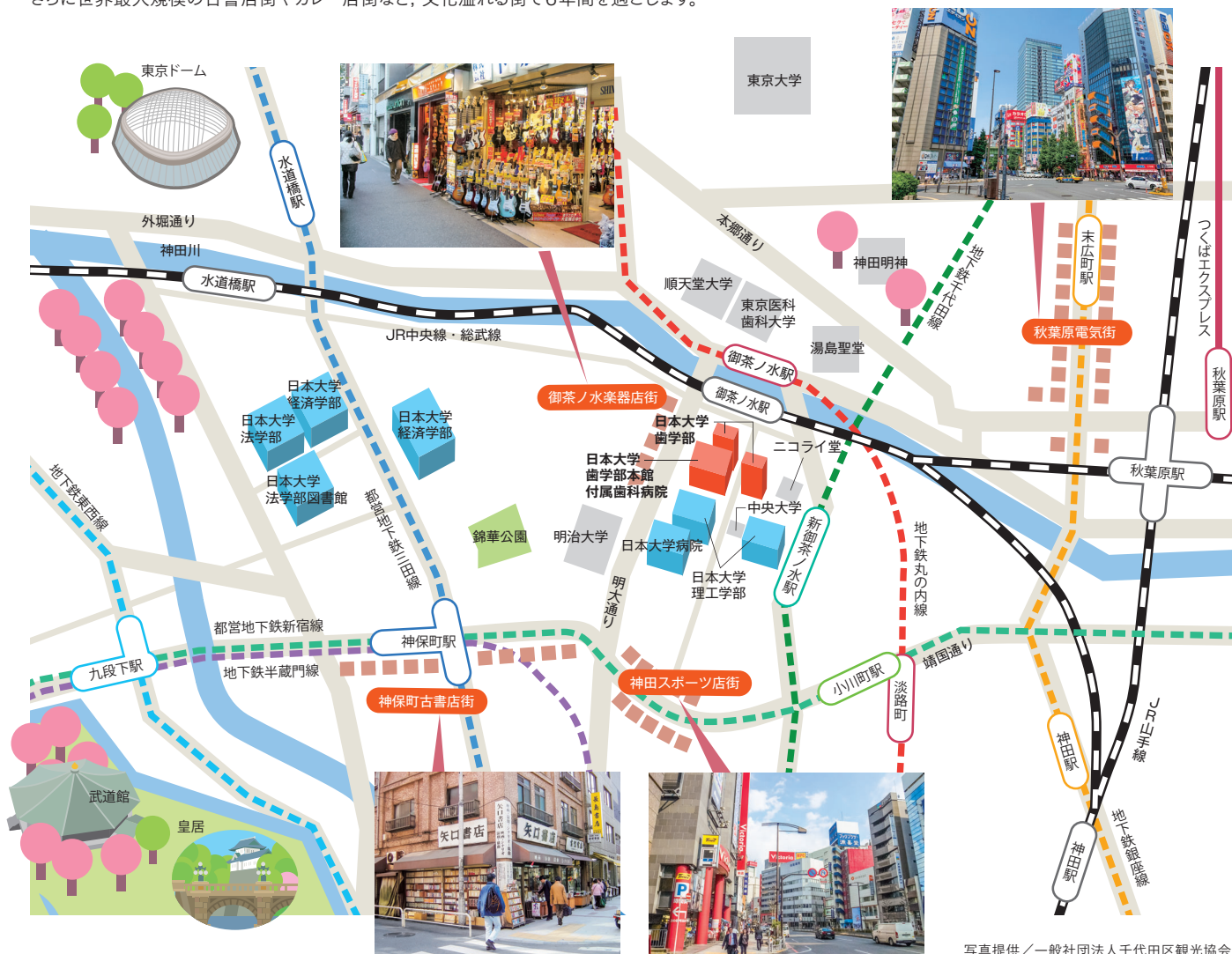
キャンパス周辺マップ

御茶ノ水駅から徒歩2分の好立地を誇る日本大学歯学部。

お茶の水、神保町は江戸時代からの由緒正しき文教地区であり、まさに学生の街。

ビンテージの楽器店に、日本一の品ぞろえを誇るスノーボード・スキー用品店などが立ち並ぶスポーツ用品店街、

さらに世界最大規模の古書店街やカレー店街など、文化溢れる街で6年間を過ごします。



写真提供／一般社団法人千代田区観光協会

年間行事

(令和6年度予定)

4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 September
- 歯学部開講式 - 第5学年登院式 - 新入生オリエンテーション - 前期授業開始 - 日本大学入学式 - 東洋歯科医学校(現歯学部)創立記念日(15日) - クラブガイダンス - 実験動物慰霊祭	- 定期健康診断 - 球技大会	- 後援会総会 - 日本大学ワールド・カフェ	- 前期授業終了 - 第5、6学年定期試験 - 全日本歯科学生総合体育大会(夏期部門7～8月) - 臨床実地試験CPX開始(第5学年)		- 第1～4学年定期試験(前期) - 第1～5学年後期授業開始
					
	球技大会		全日本歯科学生総合体育大会(歯学体)		

クラブ活動

8割の学生がクラブ活動に参加

グループ活動による実践的な経験を通じて

社会生活に必要な自立や協調性などを体得します

現在、体育会25、文化会11の計36クラブがあります。

各クラブには、教職員が顧問及び監督として配置されています。

体育会

- | | | | |
|--------------|--------|-----------|-------|
| アイスホッケー部 | ゴルフ部 | ソフトテニス部 | ヨット部 |
| アメリカンフットボール部 | サーフィン部 | 卓球部 | 洋弓部 |
| 合気道部 | サッカー部 | 日本拳法部 | ラグビー部 |
| 空手道部 | 自動車部 | バスケットボール部 | 陸上競技部 |
| 剣道部 | 柔道部 | バドミントン部 | |
| 硬式庭球部 | 水泳部 | バレーボール部 | |
| 硬式野球部 | スキー部 | ボウリング部 | |



文化会

- | | |
|---------|------------|
| 奇術部 | 美術部 |
| 軽音楽部 | 無線部 |
| 茶道部 | ワンダーフォーゲル部 |
| 写真部 | ダンス同好会 |
| 生物部 | 釣り同好会 |
| 東洋医学研究部 | |

学生支援

■ クラス担任制度

各学年に学年主任とクラス担任が配置されており、学生生活や学修状況を把握しています。また、学修面や交友関係で困ったときなどにもサポートを行います。

■ 学生支援室

学生支援室では、臨床心理士資格を持つカウンセラーが学生の抱えている問題について一緒に考え、解決の糸口を見出せるよう、親身にアドバイスしています。

■ 健康管理

学生の健康診断は、毎年実施しています。保健室には、看護師が常勤しており、学生の健康管理の相談を受けています。

■ 歯科医師臨床研修説明会

第6学年の学生を対象に開催します。臨床研修制度全般、付属歯科病院での研修プログラムなどを説明します。

学生会

■ 学生会

学年代表者会及びクラブ協議会、球技大会・桜歯祭実行委員会など、学生の自主的活動の組織を機能的に統合するものです。

■ 学年代表者会

各学年から選出された代表者から構成されています。

■ クラブ協議会

体育会、文化会の課外活動を円滑に運営し、各クラブ相互の親睦を深めるために活動しています。

■ 球技大会・桜歯祭

球技大会、桜歯祭などの学生参加イベントの企画運営を行います。

10月 October	11月 November	12月 December	1月 January	2月 February	3月 March
- 日本大学創立記念日(4日) - 桜歯祭 - 父母懇談会 - 解剖体追悼法要	リーダーズキャンプ	- 全日本歯科学生総合体育大会(冬期部門12～3月) - 第6学年卒業生発表	- 後期授業終了 - 第1～4学年定期試験(後期) - 共用試験CBT(第4学年) - 一斉技能試験CSX(第5学年) - 歯科医師国家試験	- 共用試験OSCE(第4学年) - 第1～4学年再試験(前後期)	- 第1～5学年進級者発表 - 第5学年校外研修 - 第6学年謝恩会 - 日本大学卒業式・歯学部学位記伝達式(25日) - 編入生・転部生オリエンテーション - 各学年ガイダンス
					
桜歯祭	リーダーズキャンプ				

▶ 学生の声

(学年は令和5年3月現在)

1

年生

歯科医師の可能性が広がる 歯科と医科の奥深い学びがある

歯科医師の祖父は、患者さんや職員から慕われ、その姿に憧れて歯科医師を目指しました。この1年間の学びで特に印象に残っているのが、「歯科医学入門1」です。歯科医学や医療一般についての基本的な知識を、さまざまな歯科分野の講師から学びます。歯科医師としての経験豊富な先生方の授業は非常に興味深く、どの歯科分野もさらに深く学びたいことばかりでした。本学には社会人経験者などの幅広い年齢層の学生が在籍しており、自分の知らない知識や経験を教えてもらえる貴重な環境です。互いに切磋琢磨し、人として大きく成長していきたいです。そして、祖父のように患者さんに頼られ、たくさんの人を笑顔にできる歯科医師を目指して努力を続けます。

1年生 今井 日菜子さん
宮城県立仙台第二高等学校 出身



医科歯科連携が求められる時代、 医学的歯学で得た学びを活かす

口は内臓への入り口の器官であり、口腔顔面領域の健康は、人間が生きていくために非常に重要です。歯科医療を通じて人びとの口腔衛生を助け、社会に貢献したいと考えて歯科医師を目指しました。2年次の「人体解剖学実習」は、ご献体に自らメスを入れ、人体について観察し学ぶ実習で、座学で得た知見を深める授業です。ご献体を前に葛藤や戸惑い、感謝といったさまざまな感情が湧き、毎回自分の気持ちと折り合いをつけながら学んでいった最も感慨深い授業でした。このような貴重な授業を通じて、「患者さんに誠心誠意尽くしたい」という想いが一層強くなりました。医学的歯学を学び、医科歯科連携を円滑に進められるような多角的視点を持つ歯科医師になりたいと考えています。

2年生 赤松 孝則さん
私立晩星高等学校(東京都)出身

2

年生



3

年生

口腔面から患者さんの健康を 生涯をかけて守り続ける覚悟

高校生の時に、矯正治療をするだけでなく患者さんの気持ちを理解しようと努める素敵な女性歯科医師に出会いました。矯正治療のおかげで私の笑顔が増えたと同時に、この先生のような矯正歯科医になりたいと、将来の志が見つかり進学しました。3年次の「保存修復学実習」では、基本的な臨床技能を修得できたとともに、歯科医師として患者さんの全身の健康を口腔面から守る責任感も芽生えた授業でした。講師陣は実臨床で現在も第一線でご活躍されている先生方で、臨床現場における最善の治療法などの生きたアドバイスがあり充実した授業であったため、歯科医師への志をさらに強くするものでした。先の憧れの女性歯科医師は仕事と子育てを両立させ、患者さんやスタッフからの人望も厚い。私も生涯の仕事として取り組めるよう、さらに学びを深めていきたいと考えています。

3年生 木許 美育さん
私立十文字高等学校(東京都)出身



多角的な視点を養う 学部を越えた大きなつながり

日本大学は総合大学であり、歯学部を越えた大きなつながりができることを期待し、進学しました。実際に1年次の「自主創造の基礎」の授業では、他学部学生との少人数のグループで討議。理工学部や経済学部など他学部生と意見交換でき、その後もつながりを持てたことは有意義でした。4年次の「歯科矯正学実習」も印象に残っています。さまざまな形状の道具を駆使して矯正装置を製作し、模型に装着するのですが、先生の変幻自在なワイヤー曲げに対して、私たちは悪戦苦闘。授業外で同級生と試行錯誤しながら作業したことは思い出深いです。今後も「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という自主創造の理念を実践し、医療人として必要な力を養っていきます。

4年生 大山 泰世さん
私立慶應義塾高等学校(神奈川県)出身

4

年生





5年生

4年間の努力で積み重ねた知識や技術が試される臨床実習

5年次から始まる診療参加型臨床実習は、4年間で学修し、修得した知識や技術を活かし、臨床現場で基本的な診察や技能を身につける授業で、5年次のカリキュラムの大部分を占めています。毎日のように診療室で先生方の診療を見学し、実際にStudent Dentistとして患者さんに診療をします。患者さんと向き合うと、治療内容について納得していただけるよう説明する難しさを痛感し、コミュニケーション能力の向上が課題だと分かりました。補綴科の実習では、患者さんの総入れ歯の作製を行いました。装着した患者さんの笑顔に、患者さんから必要とされていることを実感し、より責任感のある歯科医師になりたいという気持ちが高まりました。

5年生 平田 隼輝さん
私立日本大学第二高等学校(東京都)出身

「町の歯医者」として 平時も災害時も地域に貢献したい

地域医療に貢献したいと考えて歯学部に進学したのですが、入学当初は、「歯科医師は歯の治療をすればよい」と漠然と考えていました。しかし、先生方の指導を受けて、歯科治療や技術は繊細で魅力的で、患者さんの全身の健康まで配慮することを知り、歯科の奥深さにのめり込んでいきました。付属歯科病院が隣接し、現役の歯科医師との距離も近いので、将来の自分の姿を容易に想像できる環境も素晴らしいことです。6年次で学んだ「法医学」*は、大災害時の身元確認において、歯科医師に求められる役割の大きさを改めて認識しました。出身地では、南海トラフ地震が懸念されており、私も地域の歯科医師として活動したいと気持ちを新たに持つことができました。

※新カリキュラムでは4年次

6年生 福崎 愛さん
愛媛県立今治西高等学校 出身

6年生



学修支援

日本大学歯学部は、国家試験への全員受験・全員合格を目指し、そのためのカリキュラムとサポート体制を構築しています。教員をはじめ、ティーチング・アシスタントの大学院生、職員など、さまざまな立場の人々が一丸となって学生を全力でサポートします。



カリキュラム

科目間のつながりを意識したカリキュラム編成となっています。学年横断的に設置された10のコースで、基本的な知識と柔軟な問題解決能力を修得します。



クラス担任・学務委員

各学年にはクラス担任ならびに学務委員が配置されています。学生生活に関してはクラス担任が、学修に関しては学務委員が相談・対応し、充実した学生生活を送れるようサポートします。

前週講義試験

前週に行った学修事項についての試験で、毎週月曜日に実施されます。講義内容の復習をルーティン化させ、歯科医師として必要な知識の定着を図ります。

総括講義

第4、5、6年次に実施され、これまでの学修内容を整理・統合させます。

充実したカリキュラムと 教職員一丸となったサポート体制で 歯科医師国家試験に挑む

振り返り講義

前年次に学修した科目について復習するための講義です。学期末に振り返り講義の試験が行われます。

学生支援室

学生生活を過ごしていく上での悩みや問題について、日本大学本部のカウンセラー(臨床心理士)が相談に応じてくれます。

学習指導班

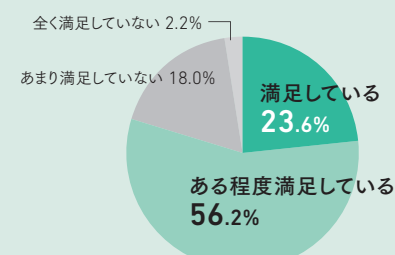
第5、6学年を対象に1グループ10名程度の班が作られ、各班に教員と大学院生(ティーチング・アシスタント)が付き、学業や生活面をサポートします。



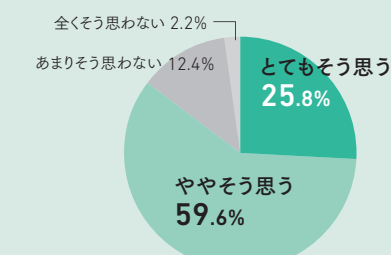
学修満足度アンケート

(卒業時)

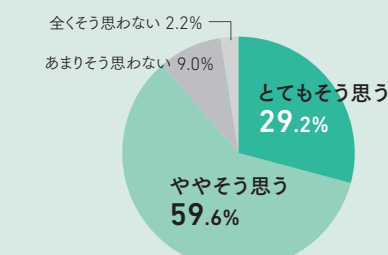
Q. 日本大学での学びに満足していますか



Q. 興味をもてるような授業を行う教員はいましたか



Q. 理解がしやすいよう授業が工夫されていたと思いますか



出典:令和4年度日本大学学修満足度向上調査(卒業時)歯学部のみを抽出

FUTURE COURSE

開業医



先輩・後輩・同級生の絆に支えられ、 歯科矯正医として地域に貢献

中高時代から、つつい友人の歯を観察してしまうタイプだった私。科学的な事や手先を使う事も好きでしたので、歯科医師は適職ではないかと考えるようになりました。本学部は医学的歯学という理念の元に、伝統ある歯学教育を行っており、科学的に視野の広い歯科医師を育成されている点に惹かれ、進学いたしました。両親は歯科医師ではなく、歯科業界について知らない事ばかりだったのですが、本学の強い絆に支えられ、充実した学生生活を送る事ができました。

卒後は13年間本学部にて臨床・研究・教育に従事しましたが、歯科矯正科医として地域に貢献して行きたいと思い、開業する道を選びました。自身も子育てをしながら、治療を通じて地域の子供達の成長も見守る日々です。当院は歯科矯正専門医院ですが、先輩・後輩・同級生と連携を取り合って、総合的な歯科治療に取り組む事ができ、日本大学歯学部同窓の絆には大変感謝しております。

一番町矯正歯科DENTAL CLINIC 副院長

鈴木 里奈さん 2005年卒業

多くのことを学んだ学生生活から 医療人としての心構えを身につける

開業医として歯科のみならず、広く地域貢献をしていた父の背中を見て、歯科医師を目指しました。父の母校である日本大学歯学部に進学し、卒業後本校の臨床系の大学院へと進学、現在医院を継承しております。学生生活において特に記憶に残っていることは、実習と部活動です。とにかく実習が多く大変でしたが、得られるものは多かったですし、医療従事者としての心構えを身につけることができましたと確信しています。病院実習では実際の臨床を目の当たりにし、一口腔一単位という意味を深く理解できたと思います。

また、日本大学歯学部は部活動にも力を入れており、その流れもありサッカー部に所属しました。部活動では生涯にわたる仲間や恩師との出会いがあり、非常に濃い時間を過ごすことができました。皆さんも濃く実りの多い大学生活を謳歌して、生涯の仲間を見つけてください。

ダイヤビル歯科 院長

内藤 浩司さん 2006年卒業

開業医



主な就職先

日本大学歯学部を卒業後、地域で開業医として診療に従事する者、研究・教育者の道へ進む者や、大学病院などで専門性を磨く者がいます。行政に従事する歯科医師もあり、卒業後の道は広く開かれています。

研究者



日本大学歯学部で学んだことを糧に 世界最先端の医学研究に挑戦する

親が歯科医師だという理由で歯学部に進学する人は多いのですが、私もそんな安易な理由で歯学部を選びました。国家試験の勉強をしているときに会った、たった1問の試験問題から、免疫学って面白いかも！と思い、大学院は慶應義塾大学の医学系研究科に進学しました。基礎系大学院への進学は、人生で初めてやりたいことを自分で決めた瞬間だったと思います。大学院の時に発見したリンパ球の研究をするために、現在は大阪大学医学系研究科と理化学研究所でアレルギー、肺線維症、潰瘍性大腸炎、子宮内膜症などさまざまな病気の研究を行っています。歯科という特殊な分野で学んだからこそ、人とは異なる目線で研究にアプローチできることもあります。日本大学歯学部が誇るコミュニケーション力も国内外の研究者との交流にとっても活かされています。歯学部を卒業したら必ず歯科医師にならなくてはいけなわけではないので、研究に興味がある方にもおすすめの進路です。

大阪大学医学系研究科感染症・免疫学講座 教授
理化学研究所生命医学研究所 チームリーダー

茂呂 和世さん 2003年卒業

「面白そう」がスタート地点 やりたいことをやってみる

歯科と無縁な家庭に育った私は、人と関わることが好きという理由で、歯学の道を志しました。学生時代は新幹線で通学し、個性豊かで人情味溢れる同級生に支えられ、毎日勉強や部活をしていました。臨床実習の時、口腔外科が面白いと刺激を受け、卒業後、浜松医科大学医学部附属病院歯科口腔外科で研修し、近畿大学奈良病院歯科口腔外科で学び、今の職場で働いています。当科は歯科医師、歯科衛生士すべて女性です。仕事と家庭を両立しながら働いています。今後も歯科領域を超えた知識を深めたいと思います。一生勉強は続きます。

学生時代、先生方には大変お世話になり大学で学んだ知識は卒業しても色褪せることはありません。皆さんには時にさまざまな壁にぶつかり簡単に解決できないこともあるでしょう。まずは「面白そう」から行動を起こし、性別で仕事の選択肢を狭めず、常に挑戦する気持ちを忘れず頑張ってください。

聖隷沼津病院 歯科口腔外科医長

田中 里枝さん 2012年卒業

勤務医



▶ インフォメーション

入 学 者 選 抜 情 報

(令和7年度)

一般選抜

■ N全学統一方式 第1期〈日本大学が実施する選抜〉

募集人員	9名
出願期間	令和7年1月 6日(月)～ 1月22日(水) (郵送必着)
試験日	令和7年2月 1日(土)
合格発表日	令和7年2月10日(月)
選考方法	●数学:数学①「数学I・数学II・数学A(図形の性質、場合の数と確率)・数学B(数列)・数学C(ベクトル)」, 数学②「数学I・数学II・数学III・数学A(図形の性質、場合の数と確率)・数学B(数列)・数学C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)」のうちから1科目選択。(各60分／100点) ●理科:「物理基礎・物理」, 「化学基礎・化学」, 「生物基礎・生物」のうちから1科目選択(60分／100点) ●外国語:「英語コミュニケーションI, 英語コミュニケーションII, 英語コミュニケーションIII, 論理・表現I, 論理・表現II, 論理・表現III」(60分／100点) ※数学において、指定科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。 ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、合計点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、理科の点数が高い者を優先とする。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。

■ A個別方式(歯学部が実施する選抜)

募集人員	60名
出願期間	令和7年1月 6日(月)～ 1月22日(水) (郵送必着)
試験日	令和7年2月 3日(月)
合格発表日	令和7年2月10日(月)
選考方法	●数学:「数学I・数学II・数学A(図形の性質、場合の数と確率)・数学B(数列)・数学C(ベクトル)」(60分／100点) ●理科:「物理基礎・物理」, 「化学基礎・化学」, 「生物基礎・生物」のうちから1科目選択(60分／100点) ●外国語:「英語コミュニケーションI, 英語コミュニケーションII, 英語コミュニケーションIII, 論理・表現I, 論理・表現II, 論理・表現III」(60分／100点) ●小論文:「(字数は当日指定)」(60分／ 50点) ●面接: (30点) ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、小論文及び面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とする。 ※合計点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、面接の点数が高い者を優先とする。

学校推薦型選抜

■ 指定校制

募集人員	3名
出願期間	令和6年11月 1日(金)～ 11月 7日(木) (郵送必着)
試験日	令和6年11月16日(土)
合格発表日	令和6年12月 2日(月)
選考方法	書類審査, 小論文(60分／50点), 面接(50点) ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、小論文及び面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とする。 ※合計点が同点の場合、面接試験の評価点の上位者を優先とし、さらに同点であった場合、全体の学習成績の状況が高い者を優先とする。
出願要件	①指定学校別に定めた全体の学習成績の状況以上の者 ②歯科医師を強く希望し、合格した場合には本学部に入学することを確約できる者 ③学校長が責任をもって推薦する者

■ 付属高等学校等〈基礎学力選抜〉

募集人員	20名
出願受付期日	令和6年11月 1日(金)
試験日	令和6年11月16日(土)
合格発表日	令和6年12月 2日(月)

※詳細については、付属高等学校等または歯学部教務課にお問い合わせください。

※本誌に掲載されている募集人員、募集開始時期、入学者選抜方法などにつきましては、予定であり、変更になる場合がありますので、必ず募集要項で御確認ください。

※身体機能に著しい障がいのある方は、受験及び修学が困難になる場合がありますので、出願前のできるだけ早い時期に、教務課入試係(電話:03-3219-8002)にお問い合わせください。

■ N全学統一方式 第2期〈日本大学が実施する選抜〉

募集人員	3名
出願期間	令和7年1月 6日(月)～ 2月25日(火) (郵送必着)
試験日	令和7年3月 4日(火)
合格発表日	令和7年3月13日(木)
選考方法	●数学:数学①「数学I・数学II・数学A(図形の性質、場合の数と確率)・数学B(数列)・数学C(ベクトル)」, 数学②「数学I・数学II・数学III・数学A(図形の性質、場合の数と確率)・数学B(数列)・数学C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)」のうちから1科目選択。(各60分／100点) ●理科:「物理基礎・物理」, 「化学基礎・化学」, 「生物基礎・生物」のうちから1科目選択(60分／100点) ●外国語:「英語コミュニケーションI, 英語コミュニケーションII, 英語コミュニケーションIII, 論理・表現I, 論理・表現II, 論理・表現III」(60分／100点) ※数学において、指定科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。 ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、合計点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、理科の点数が高い者を優先とする。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。

■ C共通テスト利用方式 第1期〈大学入学共通テストを利用した選抜〉

募集人員	7名
出願期間	令和7年1月 6日(月)～ 1月22日(水) (郵送必着)
試験日	(大学入学共通テスト)令和7年1月18・19日(土・日)
合格発表日	令和7年2月19日(水)
選考方法	●国語:「近代以降の文章のみ利用」(100点) ●理科:「物理」, 「化学」, 「生物」のうちから1科目選択(100点) ●外国語:「英語」(100点) ※理科(基礎を付していない科目)において2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。「英語」についてはリスニングの成績は利用しない。 ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、合計点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、理科の点数が高い者を優先とする。

■ C共通テスト利用方式 第2期〈大学入学共通テストを利用した選抜〉

募集人員	2名
出願期間	令和7年1月 6日(月)～ 2月14日(金) (郵送必着)
試験日	(大学入学共通テスト)令和7年1月18・19日(土・日)
合格発表日	令和7年3月4日(火)
選考方法	●理科:「物理」, 「化学」, 「生物」のうちから1科目選択(100点) ●外国語:「英語」(100点) ※理科(基礎を付していない科目)において2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。「英語」についてはリスニングの成績は利用しない。 ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、合計点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とする。

■ 公募制

募集人員	7名
出願期間	令和6年11月 1日(金)～ 11月 7日(木) (郵送必着)
試験日	令和6年11月16日(土)
合格発表日	令和6年12月 2日(月)
選考方法	書類審査, 適性試験(90分／100点), 小論文(60分／50点), 面接(50点) ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、小論文及び面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とする。 ※合計点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、面接の点数が高い者を優先とする。
出願要件	①学校教育法における高等学校及び中等教育学校又は文部科学省が認定する在外教育施設を令和7年3月卒業見込み又は令和6年3月卒業の者(在外教育施設の場合は、令和6年3月から、令和7年3月までに卒業又は卒業見込みの者) ②歯科医師を強く希望し、合格した場合には本学部に入学することを確約できる者 ③学校長が責任をもって推薦する者

その他の選抜等

■ 校友枠選抜

募集人員	15名
出願期間	令和6年11月 1日(金)～ 11月 7日(木) (郵送必着) ※令和6年10月24日(木)までに、日本大学校友会本部事務局において「出願資格確認書」の証明を受けてください。
試験日	令和6年11月16日(土)
合格発表日	令和6年12月 2日(月)
選考方法	書類審査, 適性試験(90分／100点), 小論文(60分／50点), 面接(50点) ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、小論文及び面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とする。 ※合計点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、面接の点数が高い者を優先とする。
出願要件	出願要件などについては、日本大学校友会本部事務局(電話:03-5275-8143)または歯学部教務課にお問い合わせください。

■ 外国人留学生選抜

募集人員	2名
出願期間	本部決定による～ 9月20日(金) (郵送必着)
試験日	令和6年10月19日(土) [本校試験]
合格発表日	令和6年10月25日(金)
選考方法	●書類審査 ●外国語:「英語」(60分／100点) ※出題言語は「日本語」又は「英語」、解答は出題の指示による。 ●理科:「化学」, 「生物」のうちから1科目選択(60分／ 100点) ※指定の全科目を出題し、試験当日に試験場で選択。 ※出題言語は日本語。解答は日本語で記載。 ●小論文: (60分／ 50点) ●日本語による面接: (50点) ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、外国語及び理科並びに小論文及び面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とする。 ※合計点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、面接の点数が高い者を優先とする。
出願資格	出願資格等については、日本大学入試ガイドのサイト(https://www.nihon-u.ac.jp/admission_info/application/international/)を御覧いただくか、歯学部教務課にお問い合わせください。

入学者選抜に関するQ & A

Q 募集要項はいつ、どこで入手できますか。

A. 一般選抜募集要項は、日本大学ホームページ内「入試ガイド(10月公開予定)」からダウンロードしてください。冊子での配布は行いません。ただし、編入学試験、転部試験のみ募集要項を冊子で配布します。6月中旬以降、歯学部ホームページ「資料請求フォーム」にてお申し込みいただくか、教務課窓口でお受け取りください。

Q 教育充実料の減免制度とは何ですか。

A. 歯学部に入学者で、入学試験において特に優秀な成績をおさめ、人物が優れ、健康な者に対して教育充実料の範囲内で学費が減免されます。対象者には、合格発表に合わせて通知されます。ただし、本制度が適用されない選抜があります。

Q 小論文の評価と注意点を教えてください。

A. 限られた時間と字数の中で、いかにテーマに対する論旨をまとめているか、文章力、思考力などを中心に評価します。本学部では評価を点数化しています。字数は当日指定です。

■ 編入学試験〈2年次編入〉

募集人員	2名
出願期間	令和6年10月 1日(火)～ 10月10日(木) (郵送必着)
試験日	令和6年10月19日(土)
合格発表日	令和6年10月25日(金)
選考方法	生物学、英語(出題水準は本学部第1学年修了程度)(各60分／100点) 小論文(60分／50点), 面接(50点) ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、小論文及び面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とする。 ※合計点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、面接の点数が高い者を優先とする。
出願資格	①大学を卒業した者(令和7年3月卒業見込みの者を含む) ②大学(短期大学を除く)に1年以上在学し、教職課程などの科目を除いて35単位以上修得した者。ただし、単位修得見込者を除く。 ※本学の歯学部以外の学部(通信教育部を含む)に1年以上在籍中の者は転部試験を受験すること(令和7年3月卒業見込みの者を除く)。 ③短期大学及び高等専門学校を卒業した者(令和7年3月卒業見込みの者を含む)

■ 転部試験〈2年次転入〉

転部制度について

P.22

募集人員	若干名
出願期間	令和6年10月 1日(火)～ 10月10日(木) (郵送必着)
試験日	令和6年10月19日(土)
合格発表日	令和6年10月25日(金)
選考方法	生物学、英語(出題水準は本学部第1学年修了程度)(各60分／100点) 小論文(60分／50点), 面接(50点) ※上記の結果を基に、試験の合計点の上位者から選考する。ただし、小論文及び面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、合計点が合格最低点を超えていても不合格とする。 ※合計点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は、面接の点数が高い者を優先とする。
出願資格	本学の歯学部以外の学部(通信教育部を含む)に1年以上在学し現在も在学中で、教職課程などの科目を除いて35単位以上修得した者(令和7年3月単位修得見込みの者を含む)。 ※本学の歯学部以外の学部(通信教育部を含む)に在籍中の者が令和7年3月卒業見込みの場合は、転部試験は出願できない。この場合は編入学試験を受験すること。 ※転部試験合格後、歯学部転入までに退学した場合は合格を取り消す。 ※単位修得見込者が合格後、35単位以上修得できなかった場合は、合格を取り消す。

Q 一般選抜A個別方式、N全学統一方式において、理科の科目の選択による有利・不利はありますか。

A. いずれも試験場で問題を見た上で選択できます。A個別方式では科目によって問題の難易度差が生じないよう努めており、科目による有利・不利はありませんが、科目間において平均点に20点以上の差が生じた場合は得点調整を行います。N全学統一方式では、全教科の得点を標準化得点に換算し、合否判定を行います。

Q 面接試験はどのようなものですか。

A. 各選抜とも、受験生1名に対して、2名の面接担当者が携わります。時間は10分程度です。主な質問内容は、志望動機、高等学校での活動状況、趣味・特技等の一般的な質問から、将来の歯科医師像などです。

Q 試験問題の解答方を教えてください。

A. 全問記述式です。ただし、一般選抜N全学統一方式第1期及び第2期は、全問マークシート方式です。

学 費 等

■納入方法（令和6年度）

学費は前学期・後学期の年2回に分けて納入することになっています。会計課から、その都度納入者に納入額・納入期限が示された振込依頼書が送付されます。

※後援会、校友会に係る費用は委託徴収です。なお、6年次後学期分納入時には、卒業見込者を対象に校友会費(正会員)10,000円を委託徴収します。

※本学では、教育・研究・診療活動の基盤整備などのため、入学後、任意ではありますが募金事業に御協力をお願いする予定です。

	1年次		2年次・3年次		4年次～6年次	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
入学金	600,000円	－	－	－	－	－
授業料	1,750,000円	1,750,000円	1,750,000円	1,750,000円	1,750,000円	1,750,000円
施設設備資金	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円
教育充実料	800,000円	800,000円	300,000円	300,000円		
小計	3,750,000円	3,150,000円	2,650,000円	2,650,000円	2,350,000円	2,350,000円
後援会入会金	100,000円	－	－	－	－	－
後援会費	30,000円	－	30,000円	－	30,000円	－
校友会費(準会員)	10,000円	－	10,000円	－	10,000円	－
納入額	3,890,000円	3,150,000円	2,690,000円	2,650,000円	2,390,000円	2,350,000円
年額	7,040,000円		5,340,000円		4,740,000円	

■教科書・実習器材費等概算（令和5年度実績）

卒業するまでには、学費以外にも教科書や実習器材の費用が必要です。なお、これらの費用は、その年により変動する場合があります。

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計
教科書	約 87,000円	約 116,000円	約 157,000円	約 224,000円	6,000円	約 59,000円	約 649,000円
実習器材	約 58,000円	約 113,000円	約 312,000円	約 423,000円	25,000円	0円	約 931,000円
合計	約 145,000円	約 229,000円	約 469,000円	約 647,000円	31,000円	約 59,000円	約 1,580,000円

奨 学 金

（人数は令和5年度実績）

学生が経済面でも安心して学習に取り組めるように、日本大学及び歯学部独自の学内奨学金や、学外の奨学金財団による

以下の奨学金制度が設けられています。

■日本大学特待生

種別	年額	人数	対象
甲種(給付)	授業料1年分相当額の半額及び図書費120,000円	1名	2～6年
乙種(給付)	授業料1年分相当額の半額	4名	

■日本大学創立130周年記念奨学金（給付）

種別	年額	人数	対象
第1種(入学生)	300,000円	0名	1年
第2種(在学生)		4名	2～6年

（日本大学創立130周年記念に創設した奨学金です）※経済的支援を必要とする者。

■日本大学歯学部佐藤奨学金（給付）

種別	年額	人数	対象
第1種	200,000円／100,000円	5名／25名	2～6年
第2種	100,000円	5名	
第3種	500,000円(上限)	3名	大学院 2～4年

■日本大学古田奨学金

種別	年額	人数	対象
給付	200,000円	1名	大学院 2～4年

■日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金

種別	年額	人数	対象
給付	200,000円	1名	大学院 2～4年

■日本学生支援機構奨学金（給付）

種別	月額	人数	対象
第Ⅰ区分	自宅通学者 38,300円 ／ 自宅外通学者 75,800円	6名	1～6年
第Ⅱ区分	自宅通学者 25,600円 ／ 自宅外通学者 50,600円	1名	
第Ⅲ区分	自宅通学者 12,800円 ／ 自宅外通学者 25,300円	4名	

■日本学生支援機構奨学金（貸与）

種別	月額	人数	対象
第一種（無利子）	自宅通学者20,000円、30,000円、40,000円または54,000円 自宅外通学者20,000円、30,000円、40,000円、50,000円または64,000円	26名	1～6年
第二種（有利子）	20,000円から120,000円までの1万円単位の金額の中から選択*	50名	
第一種（無利子）	80,000円または122,000円	36名	大学院 1～4年
第二種（有利子）	50,000円／80,000円／100,000円／130,000円／150,000円の中から選択	1名	

※第二種奨学金の120,000円を選択した場合に限り、希望により40,000円の増額を申込時に選択できます。 ※停止中の者を除く。

■日本大学歯学部同窓会奨学金

種別	年額	人数	対象
給付	100,000円	0名	2～6年
	50,000円	3名	大学院 2～4年

■地方公共団体・民間育英奨学金公益財団法人 森田育英会奨学金

種別	年額	人数	対象
給付	360,000円	1名	6年
		1名	大学院4年

表彰制度

表彰制度には、日本大学による表彰と本学部による表彰があります。いずれも6年間の学生生活を通じて、学業成績優秀にして品行方正な学生及び学術・文化、体育、善行、その他の部門において著しく貢献した学生に対し、卒業時に選考の上、表彰する制度です。

転部制度

日本大学では、学生が退学することなく異なる学部等(通信教育部を含む)に異動できる制度として転部試験があります。
歯学部からの転部実績／令和6年度 通信教育部:1名／令和5年度 経済学部:1名、医学部:3名、通信教育部:1名／令和4年度 通信教育部:2名／令和3年度 経済学部:2名／令和2年度 経済学部:1名、芸術学部:1名

学 生 寮

日本大学学生寮

バンデリアン松戸	男子寮
----------	-----

江戸川近くにある歴史ある街『松戸』

本学の首都圏キャンパスから郊外にあるキャンパスまでアクセスが優れた立地です。東京スカイツリーも間近に望むことができ、夏には松戸花火大会が開催されます。

住所: 千葉県松戸市松戸2221-1
JR常磐線、新京成線「松戸」駅 徒歩7分
定員: 男子70名
寮費: 月額55,000円

レガメリアン赤堤	女子寮
----------	-----

学生街にある『赤堤』

文理学部キャンパスへは目と鼻の先、地域全体に学生が多い街です。下高井戸駅までの道のりは商店が多く立ち並び、生活利便性も良い地域です。

住所: 東京都世田谷区赤堤5-23-1
京王線、東急世田谷線「下高井戸」駅 徒歩8分
定員: 女子48名
寮費: 月額65,000円

バンデリアン町田	男子寮
----------	-----

自然豊かな『町田』

潤沢な自然がある都会のオアシス。オンとオフを切り替えるには絶好の立地にあります。静かな空間で勉学に励んだら、電車で1駅の町田駅周辺でショッピングや食事なども楽しめます。

住所: 東京都町田市南大谷916-2
小田急線「玉川学園前」駅 徒歩15分
定員: 男子100名
寮費: 月額55,000円

レガメリアン宮坂	女子寮
----------	-----

閑静な住宅地『宮坂』

静かな住宅地で緑に囲まれ、宮の坂駅からの道のりは世田谷線ののどかな雰囲気をおびています。また、経堂駅近くは再開発で洗練され充実した商店街となっています。

住所: 東京都世田谷区宮坂1-30-20
東急世田谷線「宮の坂」駅 徒歩5分
小田急線「経堂」駅 徒歩8分
定員: 女子31名
寮費: 月額65,000円

バンデリアン稲城	男子寮
----------	-----

緑あふれる『稲城』

今話題のシェアハウス型学生寮。ロフトタイプのベッド導入により、同等設備の学生寮に比べ、低価格の寮費(光熱水費含む)を実現しました。京王線、小田急線の2線路が利用可能です。
(各路線約10分間隔で運行)

住所: 東京都稲城市平尾4-72-3
京王相模原線「若葉台」駅 徒歩15分
小田急多摩線「栗平」駅 徒歩12分
定員: 男子300名
寮費: 月額35,000円

レガメリアン東が丘	女子寮
-----------	-----

憧れの街『目黒・東が丘』

都心に程近い好立地。緑も多く治安の良い住みやすい街です。ハイセンスなお店などが充実しているところも魅力のひとつです。

住所: 東京都目黒区東が丘1-15-12
東急田園都市線「駒沢大学」駅 徒歩12分
定員: 女子150名
寮費: 月額65,000円

大学院歯学研究科

Graduate School of Dentistry

日本大学大学院歯学研究科及び専攻における 人材の養成に関する目的 その他の教育研究上の目的などについて

■歯学研究科

歯科医学の教育・研究活動に必要な深い教養と高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識とともに、歯科医学の発展に寄与しうる教育・研究を指導する能力を養うことを目的とする。
専攻分野の教育者及び研究者として自立した活動を行い、さらに歯科医学教育・先端的歯科診療等の指導に従事するために必要な深い教養と高度の研究能力の養成及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。

■歯学専攻

多岐にわたる歯科医学の高度にしてより幅広い知識と先進的医療技術を有す教育者及び研究者の育成を図るべく、口腔構造機能学分野、応用口腔科学分野、口腔健康科学分野の3分野を設置している。
これらは、歯科基礎系と歯科臨床系を融合した分野であり、学際領域の推進により複数の教員による指導体制のもとに、教育及び臨床に直結した歯学研究、専門医養成することを目的とする。

口腔領域で確定診断ができる病理診断 勤務と研究を両立できる大学院進学

歯学部生の頃から病理学の授業が好きで、臨床に進むだけでなく、基礎研究を続けるのも選択肢の一つかと考えていました。患者さんの病変を分析し確定診断ができるのは、歯科領域では病理診断だけで、非常に興味がありました。そこで、学部生の6年間で担任だった、本学部病理学講座の浅野正岳教授に学ぼうと、母校の大学院へ進学。「基礎研究の大学院生は20数年ぶり」と、私と同期生1人が歓待され、研究に励んでいます。
現在は、日本大学歯学部付属歯科病院病理診断科に勤務しながら、大学院生としての研究を続けています。研究は、口腔内の腫瘍で多く発生する炎症性サイトカインIL-1 α の機能についての考察。大学院臨床系と異なり、基礎研究の授業は週1回、病理診断科では1週間単位の担当制で分析・診断を行うので、その他の時間は研究に当てることができます。同時に、病理診断科の一員として、口腔病理専門医の資格取得を目指しています。

患者さんの病変を分析して、疾患の診断や、病期を判定することは、後の治療法の選択に大きく影響し、責任は非常に重大です。浅野教授のていねいな指導の下で、自分の研究と、専門医取得に向けた経験の積み上げを続け、患者さんの口腔内の健康保持に貢献したいと考えています。



大学院生 **森山 鮎子**さん
日本大学歯学部 出身

■分野及び構成科目

分野	構成科目
口腔構造 機能学分野	解剖学
	発生・組織学／口腔解剖学
	口腔生理学／生理学
	歯科薬理学／薬理学
	口腔外科学
	歯科矯正学 歯科麻酔学
応用口腔 科学分野	口腔生化学／生化学 口腔病理学／病理学
	歯科理工学
	保存修復学
	歯内療法学
	歯周病学
	総義歯補綴学 局部床義歯学
	クラウン・ブリッジ学
	感染症免疫学 口腔衛生学／衛生学 歯科法医学／法医学
口腔健康 科学分野	歯科放射線学 小児歯科学 口腔内科学 摂食機能療法学

選抜概要

■一般選抜及び社会人選抜

種別	出願期間	試験期日	合格発表
1期	令和6年9月5日(木)～9月12日(木)	令和6年9月28日(土)	令和6年10月8日(火)
2期	令和7年2月6日(木)～2月13日(木)	令和7年3月1日(土)	令和7年3月11日(火)

募 集 人 員：30名(1期・2期の合計)

入学検定料：50,000円

選 考 方 法：【一 般】英語・専門科目(志望分野の構成科目)・面接

【社会人】専門科目(志望分野の構成科目)・面接

出 願 資 格：日本大学ホームページ内の「入試ガイド」を参照または、歯学部教務課にお問い合わせください。

学費等 (令和6年度)

	1年次			2～4年次	
	入学時納入金		後学期納入金	前学期納入金	後学期納入金
	学内者	学外者			
入学金	—	200,000円	—	—	—
授業料	400,000円	400,000円	400,000円	400,000円	400,000円
施設設備資金	—	400,000円	—	—	—
校友会費(準会員)	10,000円	10,000円	—	10,000円	—
合計	410,000円	1,010,000円	400,000円	410,000円	400,000円

※4年次後学期分納入時には修了見込者を対象に、校友会費(正会員)10,000円を委託徴収します。

■ディプロマ・ポリシー (学位授与に関する方針)

歯学研究科博士課程に所定の修業年限以上在学し、修了に必要な所定の単位(30単位以上)を修得し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験において、専攻分野に新たな知見を与え、歯科医学の発展に寄与し、教育・研究者としての豊かな学識と高度な技術が認められた者に博士(歯学)の学位を授与する。
なお、学位審査では、その研究が一定以上の水準を示すインパクトファクターの付与された研究雑誌に筆頭著者として受理された論文を提出するよう推奨している。

自ら学ぶ

DP1…コンピテンシス:豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
コンピテンシー:生命の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な研究が実践できる。
DP2…コンピテンシス:世界の現状を理解し、説明する力
コンピテンシー:国際社会における科学の現状や背景を把握し、世界の医療・保健・福祉の役割を理解して、研究に取り組むことができる。

自ら考える

DP3…コンピテンシス:論理的・批判的思考力
コンピテンシー:新たな創造をめざし、得られた多岐にわたる知識や情報を基に、論理的で批判的な思考力で、最先端の独創的な研究を行うことができる。
DP4…コンピテンシス:問題発見・解決力
コンピテンシー:自らの研究課題や問題を見つけ、その解決のために必要な研究ができる。

自ら道をひらく

DP5…コンピテンシス:挑戦力
コンピテンシー:新たな研究課題に積極的に挑戦し続け、自らの道をひらくことができる。

■カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)

DP6…コンピテンシス:コミュニケーション力
コンピテンシー:歯科医学研究を含む自然科学を探索するための必要なコミュニケーションが実践でき、自らの考えを世界に発信することができる。
DP7…コンピテンシス:リーダーシップ・協働力
コンピテンシー:歯科医学を探索するための責任ある研究を実践するリーダーシップと協働力を養うことができる。
DP8…コンピテンシス:省察力
コンピテンシー:歯科医学研究者・教育者として生涯にわたり、振り返りを行うことができ、自然科学領域の研究活動において自らを高めることができる。

■カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)

自主創造の気風を自ら実践し、歯科医学の研究・教育活動に必要な高い教養と研究能力及びその基礎となる科学的思考力とともに、自立して研究を遂行・展開することができ、歯科医学の発展に寄与しうる豊かな学識と人間性を兼ね備えた教育・研究者の育成を目的とする。

自ら学ぶ

CP1…豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、社会人としての品格と研究・教育者となるために必要な倫理観や自覚を育成する。
CP2…世界の現状を理解し、説明する力
主科目、選択科目および総合特別講義の履修および基礎・臨床・社会医学の研究成果を基に、国際社会での研究活動で活躍できる能力を養う。

自ら考える

CP3…論理的・批判的思考力
主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を有する研究者・教育者を育成する。

CP4…問題発見・解決力
主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、歯科医学研究に必要な知識を幅広く体系的に学修し、リサーチマインドに必要な探求心と問題解決する力を養成する。

自ら道をひらく

CP5…挑戦力
研究によって明らかとなる新たな知見から、さらに課題を見つけ出し、それに挑戦し続けるリサーチマインドを持った研究者・教育者を養成する。
CP6…コミュニケーション力
国際的な研究活動を積極的に行う中で、適切なコミュニケーション力を養い、国際的・学術的研究を進めるための能力を育てる。
CP7…リーダーシップ・協働力
他分野の研究者と連携と協働し、良好な人間関係を構築しながら、広い視野を持つ国際的なリーダーシップが執れる研究者を育成する。

CP8…省察力

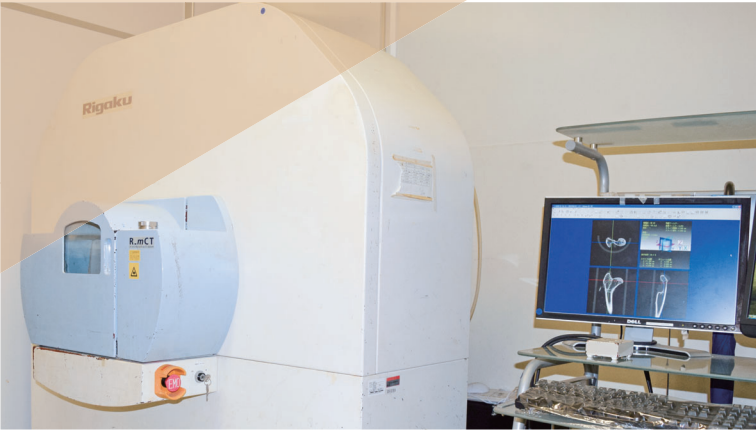
主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、自己の向上の必要性を理解し、研究・教育者として生涯にわたる向上に努める姿勢を身に付ける。

■アドミッション・ポリシー (入学者の受入れに関する方針)

歯科医学に関する豊かな知識と高いリサーチマインドを有し、優れた教育・研究者を志す人材を求める。
AP1…自主創造の精神に基づき、独創的な研究ができる人。
AP2…研究者または教育者となる強い目的意識と高い倫理観をもつ人。
AP3…自己課題とさらなる探究心に挑戦する力を持続けて努力する人。
AP4…生涯にわたる探求意欲を持続し、国際的な視点から社会貢献したい人。

総合歯学研究所

Dental Research Center



研究部門

■生体工学研究部門 ■機能形態部門 ■生体防御部門 ■顎口腔機能研究部門 ■高度先端医療研究部門
■系統生物学・腫瘍学部門 ■社会歯学研究部門 ■臨床研究部門 ■歯学教育研究部門

教育方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本大学教育憲章では「日本大学マインド」として「日本の特質を理解し伝える力」「多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力」「社会に貢献する姿勢」の3つを掲げています。日本大学歯学部は、「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」からなる日本大学の教育理念「自主創造」を基盤として日本大学マインドを有する医療人を育成します。すなわち、全学の学位授与の方針及び歯学部在教育目的に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生の卒業を認定し、学位(学士)を授与します。

- DP1 歯科医師としての責務を理解し、患者中心の歯科医療に必要な倫理観をもって医療を実践することができる能力
- DP2 世界の歯科医療の現状を理解し、異なる価値観をもつ人と積極的にかわり共生・協働できる能力
- DP3 生涯にわたってリサーチマインドを持ち続けるための基礎となる、論理的・批判的に思考することができる能力
- DP4 医歯一元論に基づく歯科医学、ならびに自然科学、人文科学の知識を有し、必要に応じて、臨床・教育・研究に応用することができる能力
- DP5 自主創造の基本理念に則り、最新の科学的根拠に基づく安全で効果的な患者中心の歯科医療を実践することができる能力
- DP6 患者・患者家族・医療従事者の立場を理解、尊重し、適切なコミュニケーションをもって医療を実施することができる能力
- DP7 歯科保健・医療・福祉・介護の現状を理解し、多職種と連携しながら地域医療に貢献することができる能力
- DP8 生涯にわたって自己研鑽に取り組むための基礎となる、自己を謙虚に見つめ、振り返ることができる能力

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

日本大学歯学部は、ディプロマ・ポリシーに示した能力を備えた歯科医師を育成するために、以下の教育課程(カリキュラム)を編成し、実施します。

1 カリキュラム編成

歯学部のカリキュラムでは、ディプロマ・ポリシーの達成に必要な教養科目、専門科目及びその他の科目を系統的、統合的、段階的に配置しています。すなわち、10のコース「歯科医学を学ぶための基礎」「歯科医師として求められる基本的な資質」「社会と歯学」「診察の基本」「全身管理」「口腔と顎顔面疾患の治療」「歯と歯周組織の治療」「歯質と歯の欠損治療」「小児歯科・矯正歯科治療」「スペシャルニーズデンティストリー」に含まれる科目群を3つのフェーズに分けて配置し(フェーズ1:第1・2学年、フェーズ2:第3・4学年、フェーズ3:第5・6学年)、それぞれにマイルストーンを設けて、学生が主体的に学修できる螺旋型カリキュラムを編成しています。

2 学修内容及び学修方法

フェーズ1(第1・2学年)は教養科目及び基礎歯学の科目が配置されており、各科目の目的・目標に応じた方法で教育を実施します。第1学年前期では、歯学部での学修に必要な基礎的知識を講義と実習により確認しながら主体的な学修の定着を図るとともに、問題基盤型学修(Problem-Based Learning: PBL)で論理的な思考能力及び問題解決能力を育成します。また、第1学年後期に行われる歯科臨床早期見学実習では、医療人としての自覚と態度を涵養するとともに、歯学部で学修する内容と医療現場との関連性についての理解を深めます。第1学年後期から第2学年では、基礎歯学の科目を中心に講義と実習を行うことにより、臨床歯学を学ぶための基盤を形成します。フェーズ2(第3・4学年)は、主に臨床歯学の科目が配置されており、講義と臨床基礎実習を行うことにより基礎歯学を含めて知識と技能を統合させます。また、より専門性を高めた形でPBLやシミュレーション実習を実施することにより、臨床における問題解決能力の基礎を育成します。フェーズ3(第5・6学年)では、診療参加型臨床実習において、Student Dentistとして患者に対する診療を担当することにより歯科臨床能力を育成します。また、基礎系科目と臨床系科目を統合した総括講義を実施します。さらに、6年間の教育プログラムを通して医療人の基礎となるコミュニケーション能力、倫理観、プロフェッショナリズムに関する教育を実施します。

コンピテンス1:歯科医師としてのプロフェッショナリズム

学習アウトカム

歯科医師としての責務を理解し、患者中心の歯科医療に必要な倫理観を有する。

コンピテンシー

- 1-1 社会規範を理解し行動できる。
- 1-2 歯科医師としての責務を理解し行動できる。
- 1-3 歯科医師法及び関連法規・規範を遵守する。
- 1-4 患者の立場や価値観を尊重し、公正な医療を提供する。

コンピテンス2:グローバルマインド

学習アウトカム

世界の歯科医療の現状を理解し、異なる価値観をもつ人と積極的にかわり共生・協働できる。

コンピテンシー

- 2-1 世界の医療情報を収集し理解・説明できる。
- 2-2 国際社会で活躍できる言語能力を身につける。

コンピテンス3:リサーチマインド

学習アウトカム

歯科医学・医療に必要な情報を論理的・批判的に思考し、生涯を通じてリサーチマインドを持ち続けることができる。

コンピテンシー

- 3-1 歯科医学・医療に関わる研究の重要性を理解できる。
- 3-2 歯科医学・医療に関わる科学的情報を適切に収集できる。
- 3-3 IT等も利用し情報を論理的・客観的・批判的に思考・分析できる。
- 3-4 知識と技能をアップデートすることができる。

コンピテンス4:歯科医学及び関連領域の知識

学習アウトカム

医歯一元論に基づく歯科医学、ならびに自然科学、人文科学の知識を身につけ、臨床、教育、研究に幅広く応用できる。

コンピテンシー

- 4-1 歯科医学を学ぶ上で必要な自然科学・人文科学の素養を身につける。
- 4-2 人体の発生、発達、成長、老化と死を説明できる。

- 4-3 人体の正常な構造と機能を説明できる。
- 4-4 疾病の発症メカニズムと病態を説明できる。
- 4-5 口腔・顎顔面領域の疾患の診断と治療を説明できる。
- 4-6 歯科医療に必要な材料、機器、ならびに薬物の特性と適切な取り扱い方法を説明できる。
- 4-7 疾病予防と健康増進について説明できる。
- 4-8 医療安全を説明できる。
- 4-9 社会保障制度について説明できる。
- 4-10 最新テクノロジーの医療への応用を説明できる。

コンピテンス5:医療の実践

学習アウトカム

自主創造の基本理念に則り、最新の科学的根拠に基づく安全で効果的な患者中心の歯科医療を実践できる。

コンピテンシー

- 5-1 患者やその家族に対して思いやりと敬意を示し、医療面接を適切に実施できる。
- 5-2 必要な診察と検査を選択し実施できる。
- 5-3 医療面接、診察及び検査結果に基づいて診断し、包括的な治療計画を立案できる。
- 5-4 患者やその家族に診断結果と治療計画を説明し、治療の同意を得ることができる。
- 5-5 高頻度治療の基本的臨床手技を実施できる。
- 5-6 適切な歯科保健指導を行い、患者の健康増進に貢献できる。
- 5-7 小児、高齢者、障害者、基礎疾患を有する者の身体、心理、社会的特性を理解し適切に対応できる。
- 5-8 診療録など歯科医療に必要な文書を適切に作成、管理ができる。
- 5-9 医療安全管理の基本概念と標準予防策を理解し、患者及び医療従事者にとって良質かつ安全な医療を提供できる。
- 5-10 チーム医療、地域医療及び国際医療を理解し、携わることができる。

コンピテンス6:コミュニケーション

学習アウトカム

他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、歯科医療の場で適切にコミュニケーションをとることができる。

コンピテンシー

- 6-1 患者と患者家族の立場を理解・尊重し、信頼関係を構築できる。
- 6-2 患者と患者家族に自分の考えを適切に伝えることができる。
- 6-3 医療従事者の立場を理解・尊重し、信頼関係を構築できる。
- 6-4 医療従事者に自分の考えを適切に伝えることができる。

コンピテンス7:地域社会への貢献

学習アウトカム

コミュニティの歯科保健・医療・福祉・介護の現状を理解し、多職種と連携しながら地域医療に貢献する準備ができる。

コンピテンシー

- 7-1 歯科保健・医療・福祉・介護の現状と課題を説明できる。
- 7-2 歯科保健・医療・福祉・介護に関わる多職種の役割と制度を説明できる。
- 7-3 多職種連携における歯科医師の果たす役割を理解し、チーム医療と地域医療に携わることができる。
- 7-4 災害医療について説明できる。

入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

本学部では歯科医学を学ぶための基礎学力を有し、健康で多様性に富んだ資質を兼ね備えた人を求めています。学生同士が「切磋琢磨」して自己を認め合い、高め合うことで、歯科医療に求められるプロフェッショナルとともに目指す意欲の高い人材の育成を行います。

- AP1 医学的歯学の理念に基づく知識・技能・態度を修得するための基礎学力と論理的思考力を有する人
- AP2 医療人となる目的意識と高い倫理観を有する人
- AP3 自主創造の気風に賛同し自己研鑽できる人
- AP4 自己の目標を実現する挑戦力を持ち努力できる人
- AP5 生涯にわたり学修意欲を持続し社会に貢献できる人

日本大学教育憲章

P.1

日本大学歯学部の歴史

日本大学歯学部は、1916年(大正5年)、佐藤運雄先生によって東洋歯科医学校として設立されたことに始まり、2016年(平成28年)に創設100周年を迎えた伝統ある学部です。その建学の趣旨は、医学的基礎に立脚した歯科技術の向上と人格の教化であるとされています。設立当時、黎明期にあった日本の歯科界において、佐藤先生は歯学を口腔に止めず、常に全身と関連づけて学ぼうとする医歯一元論を提唱し、歯科界に一大潮流を形成しました。

この理念は、本学部の校是として脈々と継承されており、幅広い知識と視野を持った数多くの俊英が巣立ち、わが国の歯学系大学のなかでも揺るぎない地位を占めるに至っています。

沿革

- 大正 5年 東洋歯科医学校創立
- 9年 財団法人東洋歯科医学専門学校設立認可
- 10年 同校を日本大学に移管
- 11年 日本大学専門部歯科設置
- 12年 関東大震災により校舎全焼
- 13年 専門部歯科指定第1回卒業式
- 15年 日本大学歯科医学校(夜間)設置認可



入学者選抜日程

日本大学歯学部

■ 編入学試験	}	令和6年10月19日(土)
■ 外国人留学生選抜		
■ 転部試験		
■ 学校推薦型選抜 指定校制	}	令和6年11月16日(土)
■ 学校推薦型選抜 公募制		
■ 学校推薦型選抜 付属高等学校等 (基礎学力選抜)		
■ 校友枠選抜		
■ 一般選抜N全学統一方式第1期		令和7年 2月 1日(土)
■ 一般選抜A個別方式		令和7年 2月 3日(月)
■ 一般選抜N全学統一方式第2期		令和7年 3月 4日(火)
■ 一般選抜C共通テスト利用方式第1期・第2期		令和7年 1月18日(土)・19日(日) (大学入学共通テスト)

進学相談会日程

日本大学歯学部

第1回	第2回	第3回	第4回
令和6年 6/16(日)	令和6年 7/21(日)	令和6年 8/18(日)	令和6年 10/12(土)

桜歯祭と共催
相談ブースのみ
令和6年

実施内容、申込方法等は歯学部ホームページでお知らせします。

Webオープンキャンパス

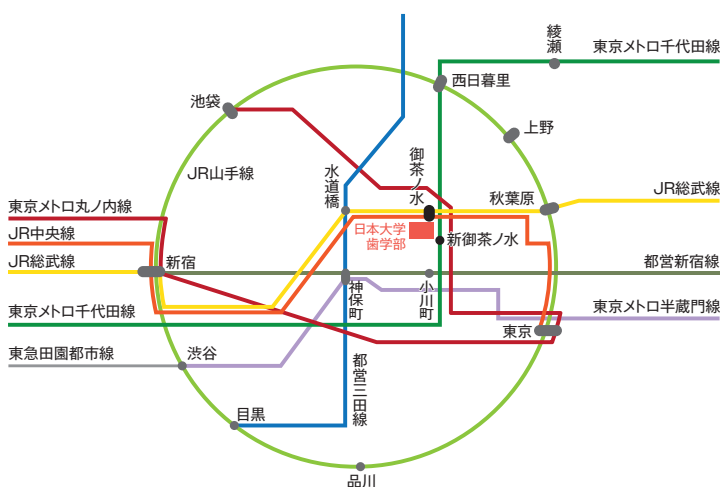
歯学部ホームページで、歯学部紹介や模擬授業の動画、バーチャル校内見学を公開しています。



お問い合わせ先 日本大学歯学部教務課(入試係) TEL 03-3219-8002

アクセス

- JR中央線・総武線 御茶ノ水駅 徒歩2分
- 東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 B1番出口 徒歩2分
- 東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅 1・2番出口 徒歩5分
- 都営地下鉄 新宿線 小川町駅 B5番出口 徒歩7分
- 東京メトロ半蔵門線・都営三田線 神保町駅A5番出口 徒歩10分



日本大学歯学部

〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13
TEL 03-3219-8001 FAX 03-3219-8310
<https://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



日本大学は、以下の情報管理宣言を定めて情報管理の徹底に努めています。関係の皆様におかれましては、本大学の取組について御理解賜りますとともに本大学の情報管理の徹底に御協力くださいますようお願い申し上げます。

■ 日本大学情報管理宣言

日本大学は、教育理念を実現し、社会的責任を全うし、本学の誇りを守るため、次の三つを宣言します。

- 1 日本大学は、業務・教学情報の外部持ち出しを許しません
- 1 日本大学は、情報を大学の重要な財産と考え、厳格に管理します
- 1 日本大学は、構成員に対し情報管理教育を徹底します

日本大学の構成員は、自らが関わる情報が、大学の誇りと構成員・校友の尊厳に関わるものであることを常に自覚し、良識を持って情報に接することを誓います。